

# 新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

## 第二十三話

### 「大狩部式土器について」(要約文)

大狩部式土器といっても町内ではあまり馴染みのない土器の名前かも知れませんが。しかし、北海道の考古学で縄文時代の文化を研究している者にとって、知らない人はいないと言われるほど知名度の高い土器の名前となっています。大狩部式土器は、厚別川左岸に位置する「大狩部遺跡」から発見された土器の中で、器の形や文様が似ているものを分類した「型式」の一群をさします。

昭和34～35年、北海道の考古学者としても広く知られた藤本英夫先生を顧問とした静内高校郷土史研究部により発掘調査が行われ、数々の遺構や遺物が確認されました。藤本先生は、後に発行された考古学雑誌において、分類した土器の一群を「大狩部式」と名付け、初めてこれらを紹介しました。

この土器の特徴としては、縄を押し付けた「縄線文」と縄を転がした「縄文」を組み合わせたもの、縄文だけのもの、さらに縄文と棒で器の表面に沈んだ直線や曲線を施す「沈線文」を組み合わせた文様があげ

られます。縄文は、ほとんどが右よりの縄で、器の表面に対して縦方向に文様を施していることが多いです。器の形は深鉢形がほとんどですが、浅鉢、壺形、舟形もあります。土器が使われた時代は、今日の研究においては、約2000年前の「縄文時代の初め頃」と考えられています。北海道内の考古学者は、縄文時代を研究する上で、この大狩部式土器を重要な手掛かりの一つとして捉えています。

この文章を読んで「大狩部式土器」に興味を持たれたら、郷土資料館に展示していますので、是非見ていただき古代の生活を想像してほしいと思います。



郷土資料館に展示している  
「舟形」の大狩部式土器

大切な「日常」のために私たちができること。

### 消防団員募集

あなたの想いで、守れる町がある。  
あなたの想いで、救える命がある。  
あなたの想いで、深まる絆がある。 消防署新冠支署

火災・救急出動状況 ( ) かつこ内は前年同期			
区分	火災件数	救急件数	
4月	0件(1件)	20件(21件)	
2年1～4月	0件(3件)	83件(109件)	
交通事故発生状況 ( ) かつこ内は前年同期			
区分	発生件数	死者	傷者
4月	0件(0件)	0人(0人)	0人(0人)
2年1～4月	1件(2件)	0人(0人)	1人(2人)

### 人のうごき

(4月末現在)

人口 5,447人 (前月比 + 30人)  
男 2,668人 (前月比 + 18人)  
女 2,779人 (前月比 + 12人)  
世帯 2,770世帯 (前月比 + 19世帯)